准教授　**出口　剛司**　DEGUCHI, Takeshi

1．略歴

1993年3月　一橋大学社会学部卒業
1994年4月　東京大学大学院 社会学研究科社会学専攻 修士課程入学
1996年3月　同 人文社会系研究科社会文化研究専攻 修士課程修了
1996年4月　同 博士課程進学
2001年3月　同 博士課程単位取得退学
2001年4月　博士（社会学）学位取得（東京大学）
2001年4月-2007年3月　立命館大学産業社会学部助教授
2005年9月-2006年9月　フランクフルト大学社会研究所客員研究員
2007年4月-2008年3月　立命館大学産業社会学部准教授
2008年4月　明治大学情報コミュニケーション学部准教授
2011年4月　東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2．主な研究活動

a　主要業績

(1) 著書

『エーリッヒ・フロム：希望なき時代の希望』新曜社，2002年，296頁

(2) 論文

「守られない約束・希望へのまなざし：E. フロム・疎外論と希望の構造」『ソシオロゴス』21号，1997年：183-199
「自然の光・理性の社会心理学：E. フロムにおける批判と倫理」『社会学評論』48巻2号，1997年：49-63
「安息日・選ばれし民の掟：初期フロムとユダヤ的アイデンティティ」『社会学史研究』20号，1998年：117-130
「大いなる拒絶か，未知なる一人称か：マルクーゼ／フロム論争再考」『ソシオロゴス』22号，1998年：32-46
「二つの文化社会学のはざまで：社会学の精神分析経験」『情況』6月号，1999年：51-65（1999年度日本社会学史学会奨励賞受賞論文）（→『社会学理論の〈可能性〉を読む』情況出版，2001年：74-88に「エーリッヒ・フロム：二つの文化社会学のはざまで」として再録）
「「大衆社会」論における〈希望〉の空間：初期フロムとハシディズム運動」庄司興吉編『世界社会と社会運動：現代社会と社会理論／総体性と個体性との媒介』梓出版，1999年：85-104
「戦後沖縄の文化構造：都市文化の空間的編制」『ソシオロゴス』25号，2001年：35-52
「革命的個人主義と六八年のマルクーゼ：唯物論的ニヒリズムの社会的構想力」『唯物論研究年誌』7号，2002年：178-200
「「もつ自由」「ある自由」の社会的人間論：I. バーリン「二つの自由」概念の存在論的再構成」片桐新自・丹辺宣彦編『現代社会学における歴史と批判（下）：近代資本制と主体性』東信堂，2003年：173-195
「負の歴史記憶と想像力：グロッセ・ハンブルガー・シュトラッセと「記憶の場所」をめぐって」『立命館大学産業社会論集』40巻4号，2005年：35-50
「パルマコンとしてのニヒリズム：後期フロムにおける攻撃性研究の視点から」G. ペルトナー・渋谷治美編『ニヒリズムとの対話：東京・ウィーン往復シンポジウム』晃洋書房，2005年：123-146
「多文化社会における〈反転した承認関係〉の可能性：フランクフルトにおけるユダヤ文化再生を事例として」リム ボン・東自由里・大津留（北川）智恵子・出口剛司・吉田智彦『躍動するコミュニティ：マイノリティの可能性を探る』晃洋書房，2008年：87-126
「アクセル・ホネットの承認論と批判理論の刷新：批判理論はネオリベラリズム的変革をどう批判するのか」『社会学理論研究』4号，2010年：16-28

(3) 学会発表

「自然的理性の軌跡」1996年11月，第69回日本社会学会大会（琉球大学）
「フロム疎外論と希望の構造」1997年6月，第37回日本社会学史学会大会（秋田経法大学）
「労働と安息日」1997年11月，第70回日本社会学会大会（千葉大学）
「初期フロム・宗教社会学の再構成」1998年11月，第71回日本社会学会大会（関西学院大学）

「ドイツ社会学史におけるユダヤ的想像力」1999 年 6 月，第 39 回日本社会学史学会大会（明治学院大学）
「自由と破壊の弁証法：フロム生誕 100 年によせて」2000 年 6 月，第 40 回日本社会学史学会大会（滋賀大学）
「解体する知・構成する知：精神分析と社会学における〈臨床の知〉」2001 年 3 月，日本社会学史学会研究例会（慶應義塾大学）
「パルマコンとしてのニヒリズム：後期フロム「ネクロフィリア」概念の思想史的位相」2004 年 6 月，第 44 回日本社会学史学会大会（日本女子大学）
「組織化された自己実現のアポリア：A. ホネットの社会学的社会心理学」2007 年 11 月，第 80 回日本社会学会大会（関東学院大学）
「個人化する社会：アメリカ社会学史をとおして」（シンポジウム指定討論者）2008 年 6 月，第 48 回日本社会学史学会大会（鹿児島国際大学）
「批判理論の現在：資本主義的近代化のパラドックスをめぐって」2009 年 3 月，第 1 回日本社会学理論学会研究例会（東洋大学）
「フランクフルト学派と学生運動」2009 年 6 月，第 49 回日本社会学史学会大会（慶應義塾大学）
「社会学理論構築における承認論の可能性」2009 年 9 月，第 4 回日本社会学理論学会大会（千葉大学）
「仏教ホスピスの可能性Ⅰ：象徴的資源としての教義と宗教空間の形成」2009 年 10 月，第 82 回日本社会学会大会（立教大学）
「自由はいかなる意味で擁護され，いかなる意味で批判されうるのか？：解放としての自由／イデオロギーとしての自由」2009 年 11 月，唯物論研究協会 2009 年度大会（金沢大学）
“Comment on Professor Honneth's Lecture" The Fabric of Justice": State Centricity in Japan as an Unexpected Result of the Reconstructive Approach” 2010 年 3 月，International Conference: Bonds and Boundaries: New Perspectives on Justice and Culture（立命館大学）
「アクセル・ホネット氏「物象化」へのコメント：承認論による概念再構築と社会批判」2010 年 3 月，日本社会学理論学会ワークショップ（明治大学）
「ケアと承認の語られる場：決定・介入・帰属・分配」（シンポジウム・コメンテーター）2010 年 9 月，第 5 回日本社会学理論学会大会シンポジウム（長崎大学）

(4) 翻訳

Feminism and Psychoanalysis: A Critical Dictionary, edited by Elizabeth Wright, Basil Blackwell, 1992.（共訳）『フェミニズムと精神分析事典』多賀出版，2002 年。“art”（「芸術」訳書：89-96），“fantasy”（「幻想」訳書：108-112），“sublimation”（「昇華」訳書：154- 156），“representation”（「表象（代理）」訳書：303- 308），“fetisism”（「フェティシズム」訳書：321- 325）を担当。
Jürgen Habermas, *Texte und Kontexte*, Suhrkamp, 1992.（佐藤嘉一・井上純一・赤井正二・斎藤真緒と共訳）『テクストとコンテクスト』晃洋出版，2006 年
“Max Horkheimer: Zur Entwicklungsgeschichite seines Werkes”（「マックス・ホルクハイマー：著作の発展史に寄せて」訳書：91-113）
“Zu Max Horkheimers Satz: »Einen unbedingten Sinn zu retten ohne Gott, ist eitl«”（「マックス・ホルクハイマーの命題：「神なくして無制約の意味を救済することは空しいことである」に寄せて」訳書：115-133）
“Alexander Mitscherlichs Sozialpsychologie”（「アレクサンダー・ミッチャーリッヒの社会心理学」訳書：179-194）
Joo Eunwoo, “Under the Gaze of the American Other,” *Korea Journal*, vol. 44 No. 1 (Spring), 2004.「他者としてのアメリカ，そのまなざしのもとで：ラカン派精神分析理論による韓国映画分析」『立命館大学産業社会論集』43 巻 1 号，2007 年：161-178
Alex Demirović, *Der nonkonformistische Intellektuelle: Die Entwicklung der Kritischen Theorie zur Frankfurter Schule*, Suhrkamp, 1999.『非体制順応主義的知識人：批判理論のフランクフルト学派への発展［第二分冊］』御茶の水書房，2009 年，206 頁

(5) 受賞歴

2000 年 6 月　日本社会学史学会から第一回「奨励賞」受賞

(6) その他

「書評『シェイクスピアの人間哲学』」『ほん』277 号，東京大学生協編集委員会，1999 年

「ミッシング・リンク，あるいは閉じられた円環：社会心理学と宗教・倫理をつなぐもの（書評　エーリッヒ・フロム著，小此木啓吾・堀江宗正訳『よりよく生きるということ』第三文明社，2000 年）」『図書新聞』2482 号，2000 年

「E. フロム『権威と家族』」山田昌弘編『家族本 40』平凡社，2001 年：233-239

「現代と若者文化」飯田哲也編『基礎社会学講義』学文社，2002 年：123-153

「ファッションと〈私らしさ〉の文化装置：ファッション人間学試論」佐藤嘉一編『〈方法〉としての人間と文化』ミネルヴァ書房，2004 年：112-130

「身体感覚とリアリティ」船津衛・山田真茂留・浅川達人編『21 世紀の社会学』放送大学教育振興会，2005 年：101-107

「〈死〉の受容と〈生〉の技法」船津衛・山田真茂留・浅川達人編『21 世紀の社会学』放送大学教育振興会，2005 年：181-201

「経験研究に向かってルーマンを内破させること（書評　佐藤俊樹著『意味とシステム』）」『相関社会科学』19 号，2010 年：113-118

「社会的性格」「自由からの逃走」日本社会学会社会学事典刊行委員会編『社会学事典』丸善株式会社，2010 年：76-77，78-79

「一九六八年のアクチュアリティ：不在の〈言葉〉を求めて」（レビューエッセー）『唯物論研究年誌』15 号，2010 年近刊

３．主な社会活動

⑴ 他機関での講義等

立教大学社会学部非常勤講師（1999 年度後期・2000 年度後期）

埼玉大学教育学部非常勤講師（2000 年度前期）

中京大学社会学部非常勤講師（2002 年度前期集中）

大阪外国語大学外国語学部非常勤講師（2006 年度後期・2007 年度）

筑波大学社会学類非常勤講師（2008 年度冬期集中）

大阪大学外国語学部非常勤講師（2008 年度–2010 年度）

立教大学社会学部非常勤講師（2009 年度前期・2010 年度前期）

駒沢大学文学部非常勤講師（2009 年度）

慶応義塾大学大学院社会学研究科非常勤講師（2009 年度後期，2010 年度前期）

⑵ 学会

日本社会学会（専門委員），国際エーリッヒ・フロム協会，スピノザ協会，唯物論研究協会，日本倫理学会，日本社会心理学会，関東社会学会（専門審査委員，理事），日本社会学理論学会（編集委員会専門委員，研究担当理事・研究委員長），日本社会学史学会